

「総領事からのメッセージ(第5回)」

2011年4月10日

川原 英一

3月11日に発生した東北地方・太平洋沖大地震後、フロリダ州内でも各種団体による日本支援のためのチャリティー活動が企画実施されています。当地の方からの義捐金の一部は、当館経由での日本赤十字社への寄付の形で寄せられており、当館から日本赤十字社に送金致しています。こうした義援金が日本の復旧、復興活動に大いに役立つことと存じます。誠に有難うございます。

●日本語(Japanese Speech Contest)弁論大会を見て

3月26日、フロリダ日本語教師会(AFTJ:The Association of Florida Teachers of Japanese)主催による恒例の日本語弁論大会がフロリダ国際大学であり、フロリダ国際大学(FIU)の会場には110名ほどの方が集まりました。この大会には、日本語学習始めて3か月の学生や日本を訪れたことのある学生など、様々な学習レベルの地元高校生やFIUの大学生達14名が参加していました。



ライシャワー・プログラムに合格して日本についての勉強を開始しているサマンサさんは、岩国に海軍の仕事で行ったお父さんがお蕎麦(そば)を大好きになったとのお話をしてくれ、アナスタシアさんは今年2月、姉妹都市の交流事業として鹿児島市の中学生がマイアミ市を訪問した際、市側のホストファミリーの一員として中学生を迎えて、仲良くなり、今度は鹿児島に行くと話していました。また、「ポケモン」に心を奪われてしまったジュリアン君、日本の小・中学校の時間割と米国の場合との比較を試みたナタリアさん、ソーラン節を「ドッコイショ」の掛け声とともに見事に演技してくれたエマさん、日本語の早口言葉を巧みに話してくれたシャレーン・ジェードさん、ビジュアル系のロック歌手の「雅(Miyavi)」が大好きというケイティさんなど、皆さんが、それぞれに大変に楽しい話題を取り上げていました。出場者は途中メモを見ながらも精一杯頑張



ございました。

って話をしてくれていました。当方からは、出場者全員への励ましと簡単なコメントを申し上げ、日本語学習を楽しみながら続けてくださいとのお話をしました。アベロ美恵子会長を始めとする AFTJ 教師の皆様、この大会をサポートされた皆様と一緒に大変に有意義な時間を過ごせました。有難うご

■日系企業訪問：メイソン・バイタミン社(米国・伊藤園の小会社)

3月30日、マイアミの北、マイアミレーク市にある Mason Vitamins 社(「お〜い、お茶」で有名な伊藤園の米国子会社が買収した)工場を訪問し、オフエリア・ペレス社長兼 COO、星・副社長さん他の皆様にお会いすることが出来ました。

伊藤園の米国子会社(NY)が、2006年に100%買収した企業が現在のメイソン・バイタミンズ社です。社長のオフエリア・ペレスさんは、キューバ出身で、企業買収前の企業の時代から今日まで24年余り働いています。ニーズのあることを、どんどん学び・吸収していくとの勤務態度で20年の間に企業内でどんどん頭角を現して、企業買収がされる当時は副社長にまでなっていました。伊藤園の米国子会社の社長に見込まれて、現在の会社の社長に就任したとのことでした。

会社のご自慢は、従業員約120名中、長年にわたり勤務をしてくれる従業員が圧倒的に多いとのこと。誰もが楽しく働けるよう、同じ人間として平等な立場での付き合いを社長自らが率先して行い、従業員から信頼を勝ち得ておられます。企業経営者として立派な方とお見受けを致しました。ビタミンなど450種類のサプリメントを同工場で生産しており、米国国内市場向けでは有名な医薬品販売チェーン店のプライベート・ブランド名で売られ、また、世界52か国に輸出されて、フロリダ州の輸出貢献企業でもあります。特に中南米にはマイアミ港からコンテナでの輸送が便利であるとのことでした。



衛生管理の行き

届いた工場内でどのようにしてサプリメントが製造され、カプセルあるいは錠剤になるのか、また、生産されたサプリメントは毎時サンプル検査が実施され、長期間の保存もされて、米国食品・医薬局(FDA)の安全基準に基づく品質管理が実施されている様

子も拝見できました。サプリメントが米国内で大量消費される背景として、医療費が高い米国では病気予防が大切と考える人が多くおられることも伺いました。

■当地で盛んな対中南米市場セミナー・講演

1. フロリダ州にとっての主要貿易相手国はブラジルやコロンビアに代表される中南米諸国であり、マイアミ市の人口の6割以上は中南米出身の人々です。当地におられるメキシコ総領事によれば、全米にいるメキシコ人のため、国境を接する州を中心に米国内の50箇所にメキシコ総領事館があり、他方、メキシコ国内には10箇所以上の米国総領事館があること、また、ブラジル総領事の話によれば、フロリダ州だけで30万人以上のブラジル人コミュニティと300社以上のブラジル系企業が活動しています。こうした事情から、当地マイアミではビジネス関係者を中心とした中南米市場経済に関するセミナーや講演が非常に活発です。
2. 4月1日にマイアミ市内ホテルで開かれたセミナーもその一つですが、フロリダ州の最大貿易相手国であるブラジル経済の見通しと米国との二国間の貿易・投資関係などについて、当地ブラジル及びアルゼンチンの商工会議所、マイアミ大学などが共催して行われました。

ブラジル経済動向に詳しいカリフォルニア大学及びコロンビア大学名誉教授のアルバート・フィッシュローさんや世銀IDBの主任エコノミストが経済見通しや米との貿易投資関係について発言をしていました。会場参加者からの質問に答えて、①対米貿易関係では、ブラジル側の大幅赤字の状況にあり、ブラジルへの更なる輸出増を期待するのはあまり現実的ではなく、将来性ある分野への米国からの投資(FDI)をもっと活発にすべきこと(フィッシュロー教授)、②今後、アジアの新興国と同じように高い成長をブラジルが維持するためには、貯蓄を高めて国内投資に振り向ける必要があること、また、③ブラジルの貿易構造を資源輸出から多様な構造にしていく必要があること、④ルーラ政権と異なりルセーフ政権は、オバマ米大統領の訪問時にみられたとおり、対米関係にはプラグマティックな対応がみられること、⑤ブラジルは、メルコスールとして共同して域外国に対応するとの姿勢を変えて米国・EUなどと今後個別に協議する可能性や米国とブラジルとのFTA協議の可能性が全くないわけではないとの見方が披露され、注目されました。

■南北アメリカ国際経済戦略フォーラム第1回会合

4月4日、南北アメリカ大陸の今後の経済動向・ビジネスチャンスなどについて経済界

人が中心となった話合いがフロリダ州内で開催されました。開催場所は米国の富裕層の高級住宅が集中しているパームビーチ市内のコンベンションセンターでした。



当方が招かれたランチョン・スピーチ会合では、西半球諸国の政治家(前パナマ大統領)、金融エコノミスト・貿易関係者に交じって、リック・スコット・フロリダ州知事の特別参加がありました。スコット知事のスピーチの中では、全米50州中、最もビジネス環境が整備された州にフロリダがなるべく、着実に各種政策を実施していること、今年中にフロリダ州とブラジル及びカナダを訪問して相互に「WIN WIN」となる貿易・投資関係を構築したいとの発言がありました。

■フロリダ国際大学(FIU)訪問

4月7日、全米では5番目に大きく、南フロリダでは最大規模の州立大学であるフロリダ国際大学(FIU)を訪問して、ダグラス・ウォルツォーク(Douglas Wartzok)副学長及びイルマ・ベセラ・フェルナンデス副学長補など皆さんお会いしました。



FIUは1965年に創設された州立大学で、学生数は現在約4万4千人おり、同副学長によれば、数年内に5万人を超える学生数となる予定です。地元社会に関与(貢献)していくことを大学のモットーにしているとのことでした。又、先だつての日本の東北・太平洋沖地震災害やハイチ大地震災害への対応を見て、思うことは、大学の研究の奥深さ(depth)が、問われているのではないかと感じたとの発言もありました。FIUでは多様な側面、学際的な研究を進めてきており、例えば、ハリケーンに関する国際研究センターがあり、またフロリダ中部(タンパからオーランドといった州の東西に抜ける地域)には、ライフ・サイエンス回廊と呼ばれる産業が集まっており、情報通信技術(ICT)、バイオ企業などが活発であり、大学としても経済発展プロジェクトを実施中とのことでした。

マイアミ市を含めて21の市で構成されるマイアミ・デート郡の公立校の教員の過半数はFIU卒業生であり、どの高校にも卒業生がおり、地元の教育に貢献している、法学部卒業生の法曹試験合格率が85%程度と極めて高く、US ニュース&リポートでも全米でも最優秀の大学として取り上げられている。地域研究が盛んであり、ラ米地域と併せて90年代後半からアジア研究センターも開設されており、今も日本を中心とした研究が進められていることなど副学長から御披露がありました。

興味深かったのは、フロリダの主要産業の一つでもある観光産業ための人材育成だけでなく、中国・北京五輪の開催前に中国の大学と連携して観光人材育成のため

の学部新設を同大学が支援していたことであり、天津大学にホスピタリティ・観光学部が既に設置された他、最近、青島大学からも同様にホスピタリティ・観光学部とスペイン語コースの開設要望があり、来月には副学長自らが中国を訪問予定であると語ってくれました。中国が FTU の支援を得て中南米で活躍できる中国人の人材育成にも目を向けているのではないかと思います。なお、同大学の中国留学生の傾向としてコンピュータサイエンスやビジネス関係を学ぶ学生が多いとのこと。アジア研究センターには、日本仏教を担当しているハイネ教授がおり、今回の訪問について尽力してくれました。同教授の部屋に案内されましたが、道元法師、禪宗に関する研究書など多く執筆していることがわかりました。また、大学のモダン言語学部にある日本語コースと日本人先生は学生に人気があるとのことでした。

◆前ブラジル副大統領ジョゼ・アレンカール氏逝去

4月4日、在マイアミ・ブラジル総領事館事務所を訪問し、3月末に亡くなられたアレンカール前・副大統領のため記帳を行いました。3月29日、サンパウロ市内病院で腸がんのため逝去されました。中部ミナスジェライス州生まれで、14歳から雑貨店の販売員として働き、一代で実業家として成功、98年上院議員、03年にルーラ大統領が就任した際、副大統領となり、ルーラ大統領と2期8年を務めています。日本との関係では、日本人のブラジル移住100周年にあたる2008年に実施された「日本・ブラジル交流年」事業のブラジル側名誉総裁を務められています。日本側名誉総裁は皇太子殿下であり、2008年6月には麻生元総理も同交流年事業でブラジルを御訪問されています。(了)